

第2回 子どもの心のケアに係る総合拠点(仮称)開設準備委員会

目次

(1) 平成29年度WGの検討状況について

① WGの設置、検討経緯 [1]

② WGの検討状況

ア 地域の小児科医との連携について [2-3]

イ 各病院の特色・専門性を生かした役割分担について [4-5]

ウ 医療・福祉両面の支援が必要な児童に係る医療機関との連携について [6-7]

エ 児童心理治療施設の役割と入所対象児童像について [8-9]

(2) 来年度以降のWGの検討課題について [10]

(1) 平成29年度WGの検討状況について

① WGの設置、検討経緯

開設準備委員会 (平成29年7月25日開催)

発達障害等に係る先進的な総合拠点の整備と併せ、全県的な支援体制の構築を推進するため、児童心理治療施設の役割と対象児童像や福祉施設と医療機関との連携、医療ネットワークの構築について、より具体的で実践的な検討を進めていくため、WGを設置

医療連携WG (WG1)

第1回 9/27 第2回 11/27



【H29年度WGで検討した事項】

- ◆ 地域の小児科医との連携の在り方
- ◆ 各病院の特色を活かした役割分担

医療・福祉施設 連携WG (WG2)

第1回 8/29 第2回 10/30 第3回 1/10



- ◆ 医療・福祉両面の支援が必要な児童に係る医療機関との連携
- ◆ 児童心理治療施設の役割と対象児童像

② WGの検討状況

ア 地域の小児科医との連携について

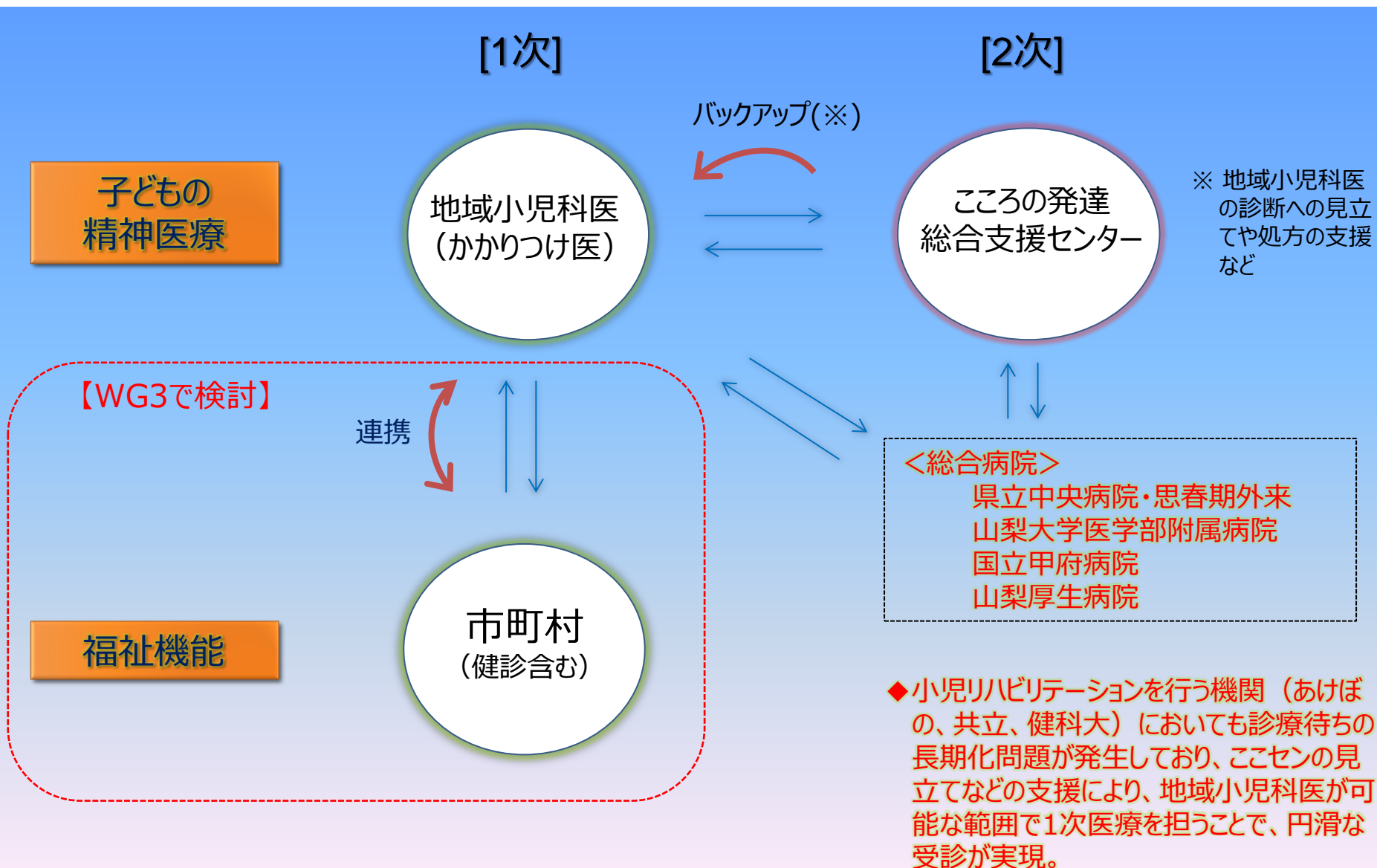
	検討内容・結果	今後の検討課題
医療連携WG	<ul style="list-style-type: none"> ここセンでの相談、診療までの待機期間が長期化している中、現在、連携シートの作成など、地域の小児科医との連携に向けた取り組みが進められている状況を踏まえ、ここセンと地域の小児科医との連携のあり方について検討を行った。 <p><検討結果></p> <ul style="list-style-type: none"> 発達障害について、ここセンや小児リハ機関が専門機関として2次医療を中心に行えるよう、地域の小児科医が、かかりつけ医として診療する中で、可能な範囲で1次医療を担うことが望ましい。 ただし、地域小児科医がトリアージ機能を担うのは困難であるため、ここセンが見立て、地域小児科医が継続して診療を行うといった役割分担、連携により、共同して医療を提供していく体制を目指す。 地域小児科医が、可能な範囲で1次医療を担うには、市町村の福祉機能との連携が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域小児科医との具体的な連携方策 → 連携シートの有効な活用方法やここセンによるバックアップの方法などについて検討 ○ 地域小児科医と市町村による連携 → 地域連携WGで検討

参考資料1

参考資料1

< WG1の検討結果まとめ >

発達障害に係る関係医療機関等の役割分担・連携イメージ



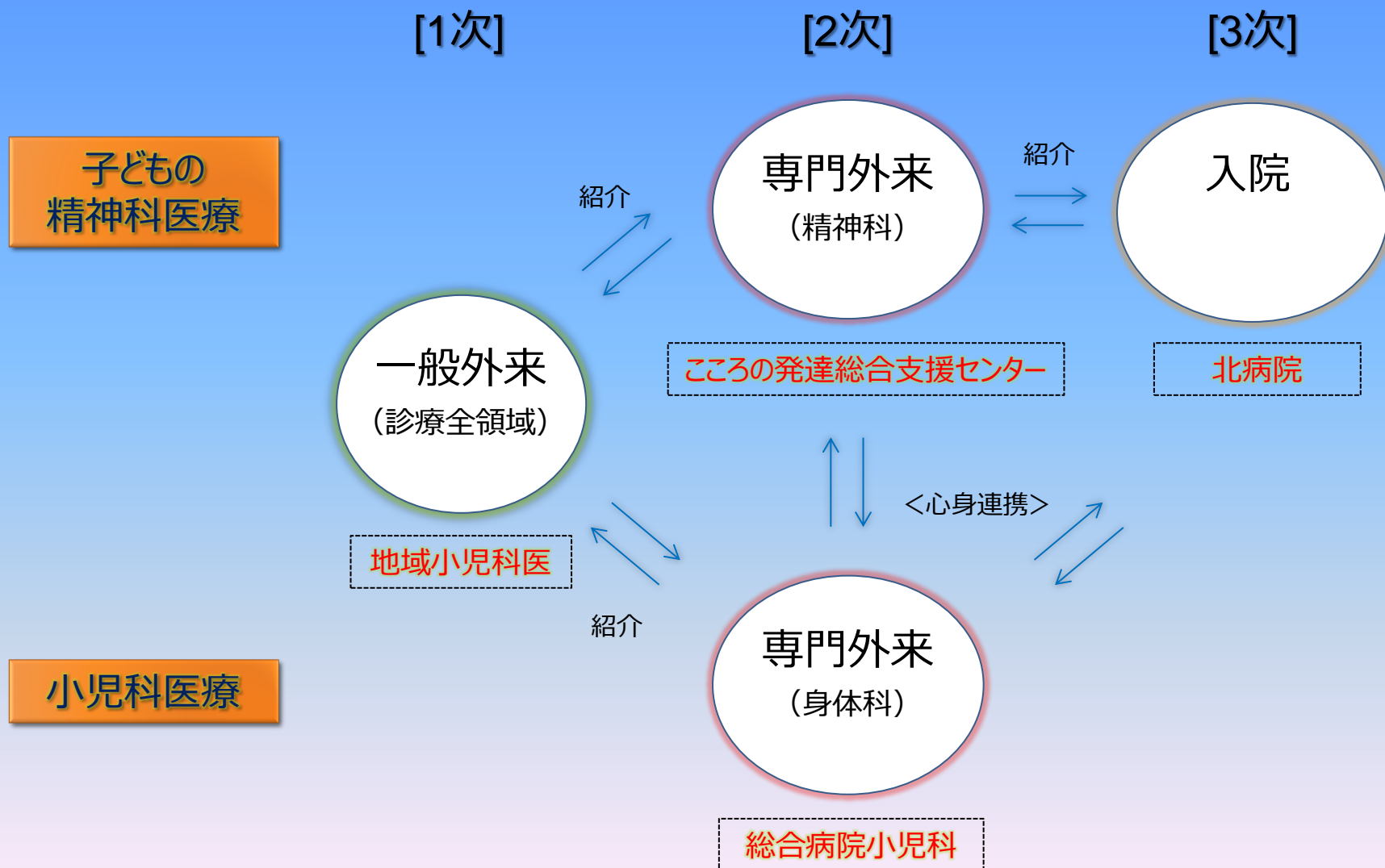
イ 各病院の特色・専門性を生かした役割分担について

	検討内容・結果	今後の検討課題
医療連携WG	<ul style="list-style-type: none"> 精神面と合わせて身体面での問題を抱え悪循環を起こすケースが多くあることから、心身両面の管理が必要なケースにおける2次医療機関の連携について検討を行った。 <p><検討結果></p> <ul style="list-style-type: none"> 関係医療機関の特色・専門性を生かした役割分担や連携については、疾患ごとに整理が必要。 身体面と精神面の両面で医療的な管理が必要なケースが多く、2次医療機関相互の連携が必要であるが、類型ごとに連携スキームが異なるため整理が必要。 <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> ①身体疾患or精神疾患の見極めが難しいケース ②身体症状と精神症状の独立した疾患が合併しているケース ③単一の疾患により身体症状、精神症状の両方が起こるケース (特に③は濃密でリアルタイムな連携が必要) </div> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> 参考資料2 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各医療機関の役割分担と連携 → 代表的な疾患等（発達障害、心身症など）だけでなく、心身両面の管理が必要なケースも含め、類型ごとの役割分担について整理・検討

参考資料2

< WG1の検討結果まとめ >

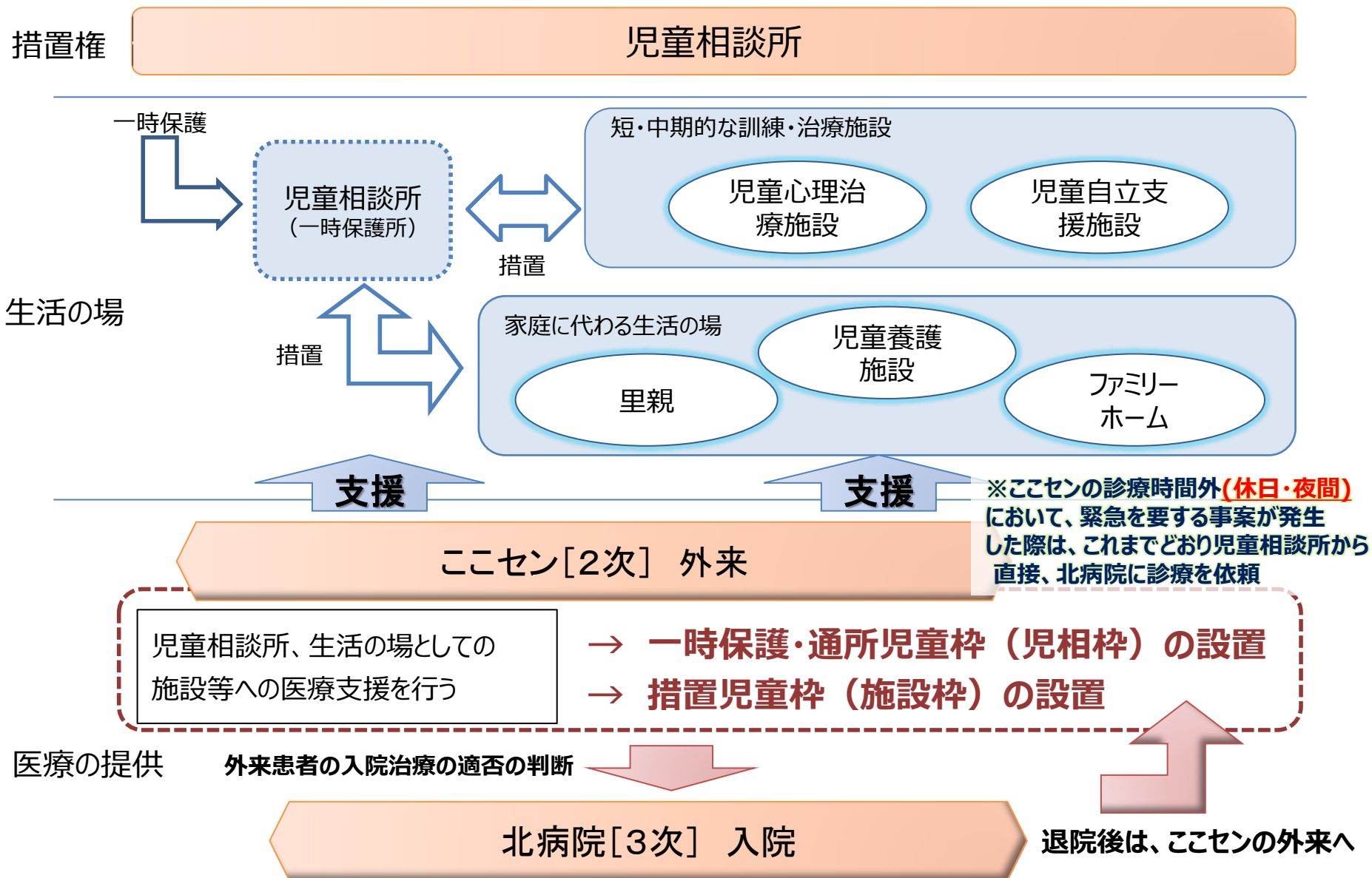
心身両面の管理が必要なケースにおける
関係医療機関の役割分担・連携イメージ



ウ 医療・福祉両面の支援が必要な児童に係る医療機関との連携について

	検討内容・結果	今後の検討課題
医療・福祉施設連携WG	<ul style="list-style-type: none"> 児童相談所への虐待相談件数が増加する中、福祉施設においても、医療の提供が必要な子どもの入所が多くなっていることから、福祉施設と医療機関との連携のあり方について検討を行った。 <p><検討結果></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童相談所で一時保護を行った児童や施設入所児童等が、緊急に精神科の診療が必要な場合、ここセンがすぐに診療や相談を行える仕組みの構築を目指す。（児相枠・施設枠の設置） ここセンで外来診療した後、入院治療が必要と判断した児童については、北病院に紹介し、退院後はここセンの外来に戻す仕組みを構築する。 ここセンの診療時間外においては、依然として、直接、北病院に診療を依頼することとなるため、今後の状況により、北病院の体制も含めた検討が必要。 <p style="text-align: right;">参考資料3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児相枠・施設枠の設置に係るここセンの実施体制や制度上の課題 → 庁内で実務的に検討

参考資料3 < WG2の検討結果まとめ >



Ⅰ 児童心理治療施設の役割と入所対象児童像について

	検討内容・結果	今後の検討課題
医療 ・ 福祉施設連携WG	<ul style="list-style-type: none"> 本県では初となる児童心理治療施設が入所対象とする児童の状態像などについて検討を行った。 <p>＜検討結果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設への入所措置については、様々な状況を勘案したうえで児相が判定することになるため、一律の入所基準を設けることは困難。 基本構想で示した「入所対象児童像」をベースにすることが望ましい。 児童心理治療施設は、短期・中期で入所する通過的施設と位置づけ、原則数か月から概ね2年程度の期間の支援により社会生活への適応の改善が見込まれる児童とする。 <div style="border: 1px solid #0070C0; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>基本的な入所パターン</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 養護施設 → 心理 → 養護施設 (アセスメントや心理的ケアのための短期的な入所) ② 家庭 → 心理 → 家庭 (被虐待児の家庭統合など保護者支援を含めた短期的な入所) ③ 家庭 → 心理 → 養護施設 (集団への適応が困難と判断される中間的な訓練入所) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童心理治療施設の運営方針・支援内容（事業計画、プログラムなど） → 庁内で実務的に検討

参考資料4 < WG2の検討結果まとめ >

児童心理治療施設の位置づけ

児童心理治療施設では、ある程度短期で子どもの状態に応じた支援方針を立て、感情や衝動性を抑える心理治療を行い、他の施設等に戻すことが理想。

基本的な入所パターン

- ① 養護施設 → 心理 → 養護施設（アセスメントや心理的ケアのための短期的な入所）
- ② 家庭 → 心理 → 家庭（被虐待児の家庭統合など保護者支援を含めた短期的な入所）
- ③ 家庭 → 心理 → 養護施設（集団への適応が困難と判断される中間的な訓練入所）



通過的な施設と位置づけ、特に生活支援を基盤とした心理治療に重点をおく

※参考【入所対象児童像】（基本構想より抜粋）

- ✓ 被虐待等の環境要因により、社会生活への適応に課題を生じており、安定的な環境での生活や、生活場面に沿った心理的な介入により改善が見込まれる児童
- ✓ 二次障害として適応の困難を生じているため、本人に合わせた対応を進める必要があると考えられる発達障害児
- ✓ 強い対人不安等から生じている、引きこもり、家庭内暴力などの問題を抱えており、環境調整等により改善が見込まれる児童
- ✓ 心身症等により不登校の問題が生じている児童で、環境調整等により改善が見込まれる児童

(2) 来年度以降のWGの検討課題について

◇H29-31の3カ年スケジュール(案)

NO	課題	課題へのアプローチ		
		H29年度	H30年度	H31年度
医療連携WG	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 限られた医療資源を生かし、効果的に子どもの心の診療を行うため、地域の医療機関との役割分担や連携システムの構築が必要 ◆ ライフステージに応じた切れ目ない支援体制を構築するためには、小児科だけでなく、地域の精神科との連携が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各病院の特色を生かした役割分担・連携の現状・課題の検討 ◆ 地域の小児科医との連携の在り方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各病院の特色を生かした役割分担・連携の在り方の検討 ◆ 地域小児科医との連携方策の検討 ◆ 精神科医との連携の在り方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ライフステージに応じた支援のための医療機関の連携方策の検討
医療・福祉施設連携WG	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 社会的養護が必要な児童に対して適切な支援を提供するため、児童心理治療施設をはじめ、各入所施設の対象児童の明確化や北病院との連携方法の検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 児童心理治療施設の役割と対象児童の状態の検討 ◆ 医療・福祉両面の支援が必要な児童の対応について検討 	<p>〔実施体制等について、庁内で実務的に検討〕</p>	<p>〔実施体制等について、庁内で実務的に検討〕</p>
地域連携WG	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 発達障害等の早期発見・早期支援のため、市町村職員等の地域における担い手の育成と連携強化が必要 ◆ 地域小児科医がかかりつけ医として1次医療を担うため、市町村との連携が必要 	/	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域における担い手の育成、連携の在り方の検討 ◆ 地域小児科医と市町村との連携の在り方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域における人材育成、連携強化の方策の検討 ◆ 地域小児科医と市町村の連携方策の検討